

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質をもった優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

法人化3年目である平成20年度の評価にあたっては、前年度の評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目中1項目（社会貢献）について、「特筆すべき進捗状況にある」と評定、他の6項目（教育、研究、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成20年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

なお、今年度は中期目標期間の中間点にあたる。これまでの業務実績の分析・評価結果を、今後の中期目標の着実な達成に向けて十分に活用されたい。

福岡県立大学は、地域と連携した取組で着実な成果をあげてきており、今年度は特に、社会貢献に関して年度計画を上回る取組等が多数認められたところであり、特筆に値する。今後とも地域との連携のもと社会貢献活動等に積極的に取り組むとともに、県立の大学としての役割を踏まえ、教育・研究をはじめとした業務の充実・改善に向けた取組を更に推進されることを期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、おおむね順調に進捗している。

教育について、「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されており、教育内容の充実に積極的に取り組んでいる。

社会貢献については、大学の知的資源を活用した各種の健康教室や資格・免許保持者へのリカレント教育、不登校・ひきこもりサポートセンターにおける相談事業等に積極的に取り組んでおり、高く評価する。

福岡県立大学の特色となる両学部の連携についても、一層の進捗が図られるよう、今後とも積極的な取組を期待する。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加、経費の節減の双方の取組において、順調に進捗している。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。特に、支出の大部分を占める人件費については、教育研究の質の向上に配慮しつつ節減への努力を続けられたい。

4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントの状況については、順調に進捗している。

法人化3年目となり、各種事業において成果をあげてきているところであるが、今後、中期目標の着実な達成に向け、法人全体の運営戦略を担う事務局の役割がますます重要になってくるものと思料する。

今後とも、事務局機能の強化に努めるとともに、運営体制の改善、適切な評価の実施、情報公開の推進により一層取り組まれたい。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育の充実

- ・教養演習について、学生の意見を取り入れたテキストに改訂するとともに、教員や学生に対してその目的・内容・方法の周知徹底を図るなど、教養演習の改善・実施に努めている。

(2) 専門教育の充実

- ・看護学部において、実習施設の拡大、教員と実習先指導者の連携強化、若手教員の実習指導力の向上等、実習教育の充実に積極的に取り組んでいる。
- ・人間社会学部社会科学において、社会調査に関するガイダンスの強化や関連科目の連携強化を図るなど、社会調査士資格取得希望者の資質向上に積極的に取り組んでいる。
- ・他の学部の専門教育を学べる教育プログラムに係る取組は評価されるが、受講者の増加に向けた工夫が必要と思料する。
- ・人間社会学研究科修士課程の受験倍率が目標を下回っており、受験生確保に向けたより一層の取組が必要である。

- ・「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されており、教育内容の充実に積極的に取り組んでいる。

（3）教員の教育能力の向上

- ・両学部が一体となったFD活動（※）強化への積極的な取組が認められるところであるが、FD研修会等への教員参加率が目標を大幅に下回っており、参加率向上のための工夫が必要である。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。

（4）学生の確保

- ・オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問等の入試広報活動について、数値目標を上回って実施しており、また、入試会場として新設した鹿児島会場で当初予定を大幅に上回る志願者を得るなど、質の高い学生の確保に積極的に取り組んでいる。

（5）成績評価

- ・国家試験の対策強化により、社会福祉士及び19年度に全国平均以下であった看護師、保健師の合格率を向上させている。

（6）学生への支援

- ・インターンシップ参加者の拡大を図るとともに、各種就職ガイダンスや国家試験対策講座を積極的に実施している。
- ・卒業後の追跡調査について、卒業生のニーズ把握や対策の検討が遅れている。

2 研究

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、生涯福祉研究センター（人間社会学部）、ヘルスプロモーション実践研究センター（看護学部）の独自の研究プロジェクトや両学部連携による共同研究プロジェクトに積極的に取り組み、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・産学官連携について、新たに福岡県新生活産業創出事業に参加するなど、積極的に取り組み、数値目標を上回る実績をあげている。

3 社会貢献

評価	5 : 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	-----------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が多く認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・大学の知的資源を活用し、地域住民の健康の向上のための各種健康教育事業や資格・免許保持者等に対する講習会、シンポジウム等に積極的に取り組んでいることを高く評価する。また、生涯福祉研究センターにおいて、福祉・教育・健康の相談事業等に積極的に取り組んでいる。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談件数や学生による県大子どもサポーターの派遣件数が着実に伸びており、また、新たにキャンパス・スクールを開設するなど、積極的に取り組んでいることを高く評価する。
- ・中国・韓国・タイの大学との学術教育交流に積極的に取り組んでいる。
- ・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業」が、内閣官房・内閣府の平成20年度「地方の元気再生事業」に選定されており、田川地域の活性化に積極的に取り組んでいる。
- ・糖尿病看護認定看護師教育課程の認可と併せて看護実践教育センターを設立し、認定看護師の養成を中心とした看護実践教育を実施することとしている。
- ・第28回日本看護科学学会学術集会を開催し、全国から約2,700名の参加を得ている。

4 業務運営

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・看護学部再生マスタープランを作成するなど、看護学部の教育研究組織の再編に積極的に取り組んでいる。
- ・実習事故の防止や感染症予防等、安全管理体制の充実に努めている。

5 財務

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげており、高く評価する。
- ・教員の計画的採用や特任教授の任用等、人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価及び個人業績評価の実施と改善に努めている。

7 情報公開

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成20年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・高等学校向けに84講座からなる「出前講座」を組織し、ホームページに掲載するなど、情報公開の推進に努めている。